

平成 21 年度食品安全モニター会議について

1 開催趣旨

平成 21 年度食品安全モニター会議は、モニターの方々に、食品安全委員会の取組や食品健康影響評価の実際などについて、知識や理解を深めていただくとともに意見交換を行うことを目的に開催した。

2 開催状況

平成 21 年 5 月から 6 月にかけて、全国 7 都市において計 10 回開催し、合計 309 名の食品安全モニターが参加した。

開催日 開催場所	モニター出席者		出席委員	説明委員
	対象地域	人数		
5月22日(金) 東京都(東京1)	東京都、山梨県、長野県	36人	見上彪 委員長、 他 委員5名	廣瀬 雅雄 委員
5月25日(月) 東京都(東京2)	千葉県、埼玉県、新潟県	32人	見上彪 委員長、 他 委員5名	廣瀬 雅雄 委員
5月26日(火) 東京都(東京3)	茨城県、栃木県、群馬県、 神奈川県	41人	見上彪 委員長、 他 委員4名	長尾 拓 委員
6月9日(火) 千歳市	北海道	12人	長尾 拓 委員	長尾 拓 委員
6月10日(水) 仙台市	青森県、岩手県、宮城県、 秋田県、山形県、福島県	25人	野村 一正 委員	野村 一正 委員
6月16日(火) 福岡市	福岡県、佐賀県、長崎県、 熊本県、大分県、宮崎県、 鹿児島県、沖縄県	42人	見上 彪 委員長	見上 彪 委員長
6月17日(水) 岡山市	鳥取県、島根県、岡山県、 広島県、山口県、徳島県、 香川県、愛媛県、高知県	34人	見上 彪 委員長	見上 彪 委員長
6月23日(火) 名古屋市	岐阜県、静岡県、愛知県、 三重県	34人	本間 清一 委員	本間 清一 委員
6月24日(水) 大阪市(大阪1)	大阪府、兵庫県	29人	小泉 直子 委員長代理	小泉 直子 委員長代理
6月24日(水) 大阪市(大阪2)	富山県、石川県、福井県、 滋賀県、京都府、奈良県、 和歌山県	24人	小泉 直子 委員長代理	小泉 直子 委員長代理

注) 委員の役職名については、平成 21 年度食品安全モニター会議開催時を記載

3 会議概要

会議の企画・運営にあたっては、20年度の会議後アンケートの調査結果等を踏まえ、改善を行った(別紙1)。会議は、大きく3部構成で行い、第1部では、事務局から食品の安全性と信頼性確保について、続いて食品安全委員会委員からリスク評価の考え方と実際について説明を行った。第2部では、事務局から食品安全モニターの活動について説明を行い、20年度から継続して活動いただいている数名のモニターの方から、食の安全の確保に向けた地域における取組・随時報告等について発表していただいた。その上でこれらをもとに、食品安全委員会委員等とモニターとの間で意見交換を行った。最後に、第3部として、モニターを小グループに分けて、各グループに配置したファシリテーターの進行のもと、他己紹介・意見交換等を行った。

また、会議には、厚生労働省、農林水産省の担当者も出席し、リスク管理施策等幅広い観点からの意見交換を行った(別紙2)。

なお、今後の会議等の運営に当たっての参考とするため、会議終了後にアンケート調査を行った(別紙3)。

20年度会議アンケート結果等を踏まえた 21年度モニター会議運営の改善点等について

<講演資料について>

- ・ 「講演資料の活字が小さい」、「最近の話題についても話して欲しい」等の意見を踏まえ、配布する講演資料を4アップから2アップにして見やすくするとともに、最近の話題として、「体細胞クローン家畜由来食品」、「新型インフルエンザ」、「サイエンスカフェ」について情報提供を行った。

<講演資料の提供について>

- ・ 「講演が参考になった」、「地域への情報提供に使用したい」等の意見を踏まえ、講演の電子媒体資料（パワーポイントのファイル）の配付希望者（会議欠席者も含む）を募ることとした。
→ 153名から応募があった。

<委員講演のお知らせについて>

- ・ 委員講演の内容に対する理解の促進や質疑応答・意見交換の活性化等のため、会議開催前に講演の担当委員（プロフィール）と内容（講演副題）を、各会場出席予定者にお知らせした。

<食品安全モニターからの報告を参考として施策形成を行ったもの>

- ・ 「食品安全委員会の改善に向けて（第279回食品安全委員会決定）」を踏まえ、食品安全モニターからの随時報告を参考として施策形成を行ったものについて配布した。

<配付資料について>

- ・ 食品安全委員会の関係資料だけでなく、リスク管理機関（厚生労働省、農林水産省）に関する資料を配布した。

<食品安全モニターの交流について>

- ・ 「時間が短かった」、「もっと話したかった」、「人数が多すぎた」等の意見を踏まえ、昨年よりも時間を長く設定し、各グループを少人数で構成するとともに、ファシリテーターを配置し、その進行のもと、食品安全モニター同士の交流を深めた。

＜食品安全モニターのネットワークについて＞

- ・ 「モニター同士のネットワークづくりができれば良かった」等の意見を踏まえ、モニター相互の自発的交流を促す目的で、会議の開催地域ごとに食品安全モニター名簿の作成・配布の希望を募ることとした。
 - 会議欠席者も含めて243名（51.7%）の参加希望があった。

＜食品の安全性に関する地域の人材育成講座について＞

- ・ 地域において食品安全に関する活動を積極的に担っていただけるように、食品安全委員会が行うリスクコミュニケーション事業の開催実績を配布した。

＜地方自治体との連携について＞

- ・ 「地方自治体の協力が見えない」等の意見を踏まえ、都道府県・保健所設置市に対して、食品安全モニター会議の開催をお知らせし、会議において地方自治体の資料の配布や地方自治体職員の傍聴を募ることとした。また、地方自治体の食品安全担当窓口一覧を配布した。
 - 会議での配付資料については、7道府県から提供があり、傍聴者については、26都道府県市から35名であった。

＜食品安全モニターからの主な意見等＞

意見交換の際のモニターからの主な意見等は、以下のとおり。

1) 食品安全一般に関する意見等（評価案件関連以外のもの）

＜食品安全委員会活動・全般関係＞

- ・ 消費者庁ができた時には、食品安全委員会、厚生労働省、農林水産省の立場・関係はどうなるのか。
- ・ 消費者庁が設置されるとのことだが、あまり省庁が増えるのはどうか。ぜひ、食品の安全性に関する情報を集約・一元化し、国民にわかりやすくしてほしい。ダブって仕事をしていることも多いのではないか。
- ・ 中国産冷凍餃子の事件等、人為的と思われる事件には食品安全委員会はどのように関わるのか。昨年中国産冷凍餃子の事件も結局うやむやになっている。
- ・ 行政機関に問い合わせをすると、「これは農水」、「これは厚労」などとたらい回しになることがある。消費者庁になると、一カ所で一元的に回答してくれるのか。
- ・ 消費者庁に関連して。消費者行政の一元化への希望を強く委員の方々から、食品安全委員会合において記録に残る形で発言して欲しい。

＜食品安全委員会活動・広報、リスクコミュニケーション関係＞

- ・ 食品安全委員会では、都道府県の教育委員会や私学協会に対して講師を派遣する旨などについて、通知されているか？家庭科の教員として島根県で講演を依頼されたが、食品安全委員会の立場では話せないのでは、そのような場合はどうしたらよいか？
- ・ 家庭科の副読本で農薬や添加物について不適切と思われる表現がある。もう少し、良い方向での情報提供はできないものか。
- ・ 地域でPTA 役員が集まりや、生協活動で食品の安全性に関する話をする場合に食品安全委員会から出されている資料を利用してもよいか。また、講師派遣はどのくらいの規模であれば応じていただけるのか。
- ・ 消費生活センターの本棚には農薬の安全性を危惧するような本が並んでいる。食品安全委員会から情報をアピールできれば良いと思う。
- ・ 地元で食育を実施している。安全性について、地元の人々にわかりやすくざっくばらんに伝える、子どもやお年寄りでもわかるように伝える手法や手引きのようなものはあるのか？
- ・ コミュニケーションが不十分ではないかと思う。消費者を安心させるだけの情報がない。食品安全委員会のリスクコミュニケーター育成講座に参加して勉強したい。人材育成に力を入れてほしい。
- ・ 食品安全委員会の出張講義について詳しく教えてほしい。リスクコミュニケーター講座でも「ファシリテーター育成」とかいいろいろあるが、それを合体してできないか。
- ・ モニターに期待することとして地域への情報提供があるが、専業主婦なので接点がない。食育の集まりには参加している。地域への情報提供を行っている人はどのようにしているか教えてほしい。

- ・ 60歳以上の人を対象とした生涯大学で食の安全について講義を行っている。モニターになって多くの資料をもらい、講義で使って、最新情報を自信をもって発信できるようになった。今回の新型インフルエンザについても、早々に見解を出してもらったので、プリントして近所の精肉店などに渡した。店頭に表示したようで、店の人から安心してもらえたと言われた。関連の近い人にちょっとプリントを渡すだけでもそこから広がるのではないかな。
- ・ 私も専業主婦だが、以前は食品の分析を行っていた。いまは筑波で食生活改善のグループに入っている。市のほうからも食品安全委員会の情報を流してくださいと言ってくれる。新型インフルエンザのときは食品安全委員会委員長の見解があったため、豚肉の風評被害が発生しなかった。主婦は情報を入手するのがむずかしいと思うが、農水省の機関を見たりしている。同じような立場の主婦が多いので、情報共有することが大切。添加物のことなどもわかりやすく説明してあげることが大事。
- ・ モニター6年目でずっと主婦をしており、どうやって情報を地域に還元するか考えてきた。小さい子供がいる人は地域で集まることが多い。自分から話題を出していったらどうか。鳥インフルエンザのときは、加熱すれば大丈夫と伝えた。ひとりに伝えるとそこから10人に伝わるというように広がる。
- ・ モニター1年目で、食品関連企業で非常勤で働いており、神奈川県消費者団体のメンバーにもなっている。消費者目線で安全とは何かと考えてきた。神奈川県では食の安全について95%が不安をもっている。情報が多い中で何を信じ、何を選択してよいかとまどいがある。サイエンスカフェには非常に興味をもった。地域の中で小さい真のリスクが展開できれば自分なりの安心感を持てると思った。地域の中でどう展開していくのか。
- ・ 神奈川県では、県立図書館で土曜日の昼にサイエンスカフェが開かれているが、希望者が多く、自分はいつも抽選にもれている。図書館に協力を求めている。
- ・ 配布資料を見たところ、人材育成講座は自分が住んでいる神奈川県では実施されていないようだ。開催している地方自治体は、どのように選出されているのか。
- ・ モニター1年目で食品安全委員会の資料やメルマガを見ている。食品の遺伝子解析の装置を作っており、現在、マスターの学生を対象に講義している。食品安全委員会の資料をコピーして学生に配布してもいいのかな。茨城県の人とも話しているが、県は農産物生産者に重点をおいているようだ。
- ・ NACS(日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会)会員で、エコ関係の啓発事業に関わっている。NACSでは、省エネ講座を企画し、受講生も1万人を達成した。聞く人が10人以上集まれば、NACSから講師を派遣している。食品安全委員会でもNACS等の団体に働きかけることによって、人材育成講座の普及が進むのではないかな。
- ・ ①食品安全委員会から季刊誌等が送られてくるが、何部ぐらい作っていて、どういう場所に置かれているのか。②PCからモニター随時報告のフォーマットをダウンロードすることはできるか。
- ・ 食品安全委員会の配布物を高校に持っていかうかと思うが、食品安全モニターとして、どういう権限があるのか。肩書きもなく、一人きりの活動で、少々こころもとなく感じることもある。何らかの肩書きがあると自信を持って動きやすい。学校に対する試みはあるのか。あれば家庭科

の教師にアピールしたい。

- ・ モニターの随時報告がHPに掲載されているが、それについて寄せられたコメントに皆さんは満足しているのか。満足しているかどうかをフィードバックして検証してはどうか。この後の小グループでの話し合いでも問題提起したい。回答がずれていると意欲が損なわれる。
- ・ これまで、何かがあるとまず小売は店頭から商品はずしていたが、新型インフルエンザが発生した時には、食品安全委員会委員長の見解をメールで友人に送った。役立ったようだ。情報提供をしようとした場合に、“これがいい！”というようなテキストやパンフレットなどがあれば良いと思うが、何かあるのか。
- ・ メールマガジンには、意見募集の情報も載っているが、一般消費者で意見募集に応募する人はどのくらいいるのか。どうも難しい気がする。専門用語が多い。メールマガジンも一般の消費者向けの情報、専門家向けの情報に分けたらどうか。一般消費者向けを先に、意見募集は後にして欲しい。
- ・ モニター報告は、きっかけがつかめなかったり、書けると思ったテーマは他の方が既に出されていたり、ふつうの主婦には難しいのではないかと。たとえば、食品健康影響評価が出た時にモニター宛に情報を出していただければ考えるきっかけになると思う。
- ・ 食品安全委員会では、食品の安全性について一生懸命研究されているが、末端には情報が届いていない。地域の保健所にも情報が届いていないように思う。地方の下請けの小さな企業では食品添加物の管理が適切でない。それでも大手メーカーは下請けの製品も欲しいので、大手スーパーの検査機関で合格であることをもって、販売している。下請けに営業に来る食品添加物の業者も知識がなく、小さな食品メーカーは、一方的な業者の言われるままに使っている。地方の保健所も小さい会社を指導する必要があると思う。
- ・ BSE発生当時は、検査をしているので安全であるというようなことになっていたように思う。食品安全委員会ができて、BSEのリスクコミュニケーションも開催された。BSEに関心のある人はたくさんいた。大手企業や余裕のある人はそれなりの手立ては可能であるが、主婦に対してはコミュニケーションがとれない。今後、自分自身でも公民館で話をしてみたいとも思っている。国も、きめ細かな情報提供を徹底してほしい。モニターとして仲介的にできることがあればしたい。連携をとればよいと思う。
- ・ モニターが地域の橋渡しをしなければならないというのはわかるが、委員会から発行されるリーフレットや情報について、個人が橋渡しするよい方法があれば、教えてほしい。
- ・ モニター報告の案件について、表示や景表法にかかわることは、どのようにとりあげていただけるのか。たとえば、とうふの固形分の表示については、規制がないと、どんどん固形分の低いものが出回るようになるのではないかと。このようなこともとりあげていただけるのか。縦割り行政により、誰にも読んでもらえないというようなことはないのか。
- ・ メールマガジンが読みづらい。農薬の物質名など自分としてはわかるが、一般の方にはわからないのではないかと。最後までスクロールして、あとがきぐらいしか読めるものがないと思う。食品安全モニターにとってはあまり有益なものがない。もっと具体的な、わかりやすい、リスクコミュニケーションなどについての情報がほしい。
- ・ 食品安全委員会の情報はどのように国民に下りるものなのか。地方自治体の関係はどうなのか。

消費生活センターは？

- ・ マスコミの食の報道について。特に、日中帯の番組では、視聴者に強いインパクトを植えつけるような強い文言で報道されている。食品安全委員会は、誤った報道がされた際、訂正報道をずるよう指導できるのか。また、指導しているのか。
- ・ 自分は、食品安全について何も知らない頃は無責任に話を聞いていたが、小泉先生の話を知ると、日本人は少し騒ぎ過ぎかとおもう。科学の目から見て、「この部分はしっかり押さえていかなければならない」という点があれば教えてほしい。
- ・ 自分は流通業界にいる。国民とのコミュニケーションの大切さは認識している。食品安全委員会でも教員免許更新のサポートなど、よい取り組みをしていると思う。消費者は正しい情報を知りたがっているが、得る機会が少ない。頼りは昼のTV番組だが、そこでの報道は煽り気味の内容で、それが国民にダイレクトに伝わってしまう。食品安全委員会では、若い人、老人などにもわかりやすいリスクミをしてほしい。そのためには、マスコミや情報誌などを積極的に活用してほしい。
- ・ 食品安全の分野でキーワードはコミュニケーションだと思う。モニターの質の向上・力量アップが必要だと思う。その意味でもこういった場はとても重要。しかし現実的には頻りに集まるのは難しい。HPの中で、モニター同士のフォーラムや掲示板があれば、もっといろいろと意見を交換できるのではないかと。ネット等も使い、いろいろな角度からアプローチを考えて欲しい。
- ・ リスクコミュニケーターとモニターの立場の違いを教えて欲しい。
- ・ 農薬の意見交換会に、食品安全委員会主催、農林水産省主催、大阪府主催のそれぞれに参加したことがある。どの意見交換会に出たらいいのかわからない。アドバイスが欲しい。
- ・ 「食品安全委員会の改善に向けて」の中に、関係団体とのネットワーク強化というのがあるが、これはどの程度行うのか。自分は富山県栄養士会に入って、食育の活動をしているが、食の安全も話題にしたいと思っている。2月に指導者育成講座を受け、「クロスロードゲーム」がとても参考になったので。

<その他>

- ・ 新型インフルエンザの発生で、食品事業者にマスクやアルコールの供給が間に合わない状況が生じている。どこの機関が、確保してくれるのか。
- ・ 家族で焼き鳥屋に行き、食事をしたところ、妻と子供が嘔吐し、医者に行った。最初に行った医者では“食べすぎ”と診断された。別の病院でカンピロバクターによる食中毒だといわれた。医師に、保健所への通報が必要ではないのかと聞いたところ、他には例がないので、連絡はしないといわれた。病院は多量に食中毒が起こらない限り対応しないのか。
- ・ 広瀬委員のスライドの2ページ目に不安要因の表があったが、食品添加物が年々下がってきている。これは食品安全委員会の効果か？農薬はモニターにとっても遠い存在である。パブコメを見てもわかりにくい。どう考えるか。
- ・ 危害情報についての報告について、どう捉えたらよいのか。情報は内部告発によるものが多い。食品安全モニターが伝聞の情報を報告として提出してもよいのか。伝聞通報の場合、公益通報者

保護法の対象になるのか。内部告発ではなく伝聞だと、モニターが名誉毀損で訴えられかねない。

また、「食品安全モニターの手引」の2ページ目に、危害情報を入手した場合の情報提供について、「お近くの保健所にもあわせてご一報いただくと、より速やかな対応ができます」と書いてある。しかし、過去の保健所の対応は遅く後手に回っている。せっかく手引に従って保健所に連絡しても保健所の対応が遅かったり門前払いされたりしては、何のために連絡したのかわからなくなってしまふ。食品安全委員会と保健所の連携はどうなっているのか確認したい。

- ・ 先週の地元の新聞で、食品の表示違反があった事業者が800件以上に上るとのことが載っていた。そのうち110は、公表されているが、それ以外は未公表とのことであった。なぜなのか。国の中でも情報開示しているところとそうでないところがあるように思う。自治体や消費者センターなどが把握していることなど、もっと問題があるのではないか。
- ・ 今、家庭の食卓がめちゃくちゃ。じゃがいもの青いところは食べてはいけないといった、家庭の中で自然と知るべき情報が引き継がれていない。農村部の家庭も、惣菜を外で買ってきて、食卓に出すという状況。女性だけでは食卓は守っていけるものではない。学校の家庭科では子供の健康のために、家庭の食卓を作っていくのかということなどをどのように教えているのか。
- ・ 家庭科の内容は幅が広い。しかし、高校の家庭科は週2時間と限られている。私の場合は、時間があれば、調理実習をしている。その中で、家庭での経験が少ないんだと感ずることが多い。なので、基礎的なことも学校でも教えるようにしている。また、授業の中では、出来る限り食の内容を多く取り上げるようにしている。
- ・ BSEや肉骨粉の問題について。牛は本来草食。乳を出させるために無理に草以外の飼料を食べさせたため、あのような問題がおきた。牛に草を食べさせるために、畜産農家は年中草を探している。しかし、後継者不足・高齢化などの問題で、そういった部分に手が回らなくなってきている。なので、結局外国から飼料を輸入しなければならなくなる。食が自分から離れれば離れるほど、国産であったとしても完全な国産ではなく、途中のどこかに輸入品が入ってくるのだ。
- ・ 最近、中国製冷凍餃子の事件があったり、メラミンの混入があったりした。日本は輸入大国。検疫所での水際対策というのは必要だと思う。もっとスピードアップした検疫体制をとって欲しい。この調子でいくと、人が死んだり、危害が出てから対策をとり始めるのでは遅い。また、現状は外務省や厚生労働省などそれぞれ、ばらばらなので、一本化した方針等を作っておくべき。危害が発生するなど緊急事態の時はどのような対応になるのかと心配。
- ・ 常日頃、疑問に思っていることだが、リスク管理は厚労省と農水省が担当しているが、受け持ち分担の線引きはどうなっているのか？また、新聞などを読むと、厚労省あるいは農水省から1つの情報が発信されているにもかかわらず、新聞によってコメントや主張が異なることがある。これはどういうことか？
- ・ 食の安全についての学校教育は重要だと思う。たとえば、受験科目にいれるとか、強制的に教育システムに組み込むなどしなければ、食の安全が広く国民に浸透しないのではないか？

2) リスク評価等に関する意見

〈全体・一般論〉

- ・ 動物実験に用いる動物の個体数は、調べる物質によってちがうのか、それともいつも同じなのか？
- ・ リスク分析の考え方はいつごろから、どういう背景ででてきたのか教えてほしい。39年間コープの仕事にかかわってきている。昭和47年当時は、近海の魚は水銀を多量に含むから店頭では取り扱わず、ブラジル産の魚や深海魚を売っていた。亜硝酸入りのソーセージやアスパルテームなどよくわからないものは扱わないとか、コーラの成分は分析がされていないので扱わないというようなことがあった。
- ・ 食品安全委員会の問題として産地偽装を扱うのか。産地偽装の問題を大きくしたのは農林水産省の責任があるのではないかと報告したことがある。消費者から産地偽装問題が発覚したことはない。これまではすべて内部告発でわかっている。同一品質のものを農林水産省がブランド化するために、あおったのではないかと危惧している。そこに、警察権力まで介入して解決する問題なのか。
- ・ 自ら評価の具体的なテーマを知りたい。

〈評価案件について〉

【添加物】

- ・ 長尾委員の講演で、食品添加物のうち、香料は他の添加物とは少し違うこと、嗅覚が重要であるとの説明があったが、具体的にどういうことか教えてほしい。

【農薬】

- ・ 正しい農薬の使い方をすればいいというが、実態はどうか。農薬の使用の記録を生産者はとっているのか。消費者の安心のためには、そのような努力も必要である。ADIは厚生労働省で決めていると聞いたが、食品安全委員会で決めるべきではないか。また、農薬など過去につくった基準を見直す必要があるのではないか。

【化学物質・汚染物質（食品中の有害物質）】

- ・ ポジティブリスト制度がスタートしたが、原材料の数値（基準値）と加工した後の最終製品の数値が齟齬しているが、その矛盾はどう考えているのか。また、基準値とADIの関係はどう考えたらいいのか。何が安全で何が危険なのかという線をどこかで引かなければならないと思っている。たとえば、野菜ジュース。最終製品では基準をクリアしているからOKだが、原材料で基準を超えているからダメになるというのはおかしい。食品安全委員会がADIがでているのだから。数字が3重構造になっている。
- ・ 鉄道のまくら木の中のクレオソートが、畑の野菜に取り込まれるのではないかと聞かれたことがある。どのように答えたらよいか？植物は（窒素やリン等の）無機物だけでなく、有機化合物も吸収するのか？
- ・ 食品安全という意味では、山菜類の安全性も対象になると思う。どういう扱いになるのか。カタクリなど、食べると下痢をする。また、スギカノコは、これまで食べていたが、現在は食用禁止になっている。

【微生物・ウイルス】

- ・ インフルエンザ問題で今回、豚肉および豚肉加工品にそれほど風評被害が出なくて安堵。ただ、スーパーを始めとする小売業の衛生管理者に過剰な反応があるのが問題である。
- ・ 鳥インフルエンザが発生した際は、鳥が殺処分されたが、今回の豚インフルエンザでは豚は殺処分されないのか。生卵もウイルスがいるのか。鶏糞はどうか。

【BSE】

- ・ BSE 問題について。なぜ、ホルスタイン種で BSE が発生しているのか。また、飼料規制後に黒毛和牛が出たのはなぜか。

【新開発食品】

- ・ こんにゃく入りゼリーの評価について、他の物質の安全性は動物試験ができるが、こんにゃく入りゼリーはどのように試験が行われるのか。メーカーでは大きさを変えたようだが。
- ・ 体細胞クローン牛について、リスク評価の結果、問題ないとのことだが、新聞報道によると、再検討すると出ていた。どうなっているのか。科学的根拠をもって、評価したものをすぐにまた再評価するというのは、食品安全委員会の根本が揺らぐのではないかと思っている。
- ・ 小泉先生から、こんにゃく入りゼリーについて形態学的な面から検討を進めているという話があったが、リスク管理機関より進んだものが検討されるということか？

平成21年度食品安全モニター会議アンケート結果

開催地	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	計
開催日	H21.5.22	H21.5.25	H21.5.26	H21.6.9	H21.6.10	H21.6.16	H21.6.17	H21.6.23	H21.6.24	H21.6.24	
参集都道府県範囲	東京都、長野県、山梨県、千葉県、群馬県、埼玉県、神奈川県	埼玉県、千葉県、東京都、新潟県、茨城県	茨城県、栃木県、群馬県、神奈川県、東京都、埼玉県、千葉県	北海道	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都府、福井県、富山県	滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、富山県、石川県、福井県	
出席者数(人)	36	32	41	12	25	42	34	34	29	24	309
アンケート回収数(枚)	31	32	41	11	20	33	32	34	29	20	283
回収率	86.1%	100.0%	100.0%	91.7%	80.0%	78.6%	94.1%	100.0%	100.0%	83.3%	91.6%

問1 職務経歴	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
食品関係業務経験者	29.0%	46.9%	43.9%	27.3%	55.0%	48.5%	43.8%	35.3%	34.5%	45.0%	41.3%
食品関係研究職経験者	9.7%	6.3%	4.9%	9.1%	0.0%	9.1%	12.5%	8.8%	17.2%	5.0%	8.5%
医療・教育職経験者	22.6%	21.9%	7.3%	27.3%	20.0%	15.2%	6.3%	8.8%	10.3%	20.0%	14.5%
その他消費者一般	29.0%	21.9%	36.6%	9.1%	25.0%	24.2%	37.5%	44.1%	34.5%	20.0%	30.4%
無回答	9.7%	3.1%	7.3%	27.3%	0.0%	3.0%	0.0%	2.9%	3.4%	10.0%	5.3%

問2 モニター継続区分	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
継続	48.4%	34.4%	48.8%	63.6%	40.0%	48.5%	43.8%	35.3%	37.9%	50.0%	43.8%
新規	48.4%	65.6%	46.3%	36.4%	60.0%	51.5%	56.3%	61.8%	62.1%	45.0%	54.4%
無回答	3.2%	0.0%	4.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	5.0%	1.8%

問3 全体の満足度	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
満足	12.9%	37.5%	41.5%	45.5%	15.0%	12.1%	18.8%	32.4%	27.6%	15.0%	25.8%
だいたい満足	71.0%	50.0%	39.0%	36.4%	65.0%	63.6%	53.1%	44.1%	51.7%	60.0%	53.4%
どちらでもない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	12.1%	9.4%	5.9%	6.9%	5.0%	4.9%
やや不満	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
不満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	12.9%	12.5%	19.5%	18.2%	10.0%	9.1%	18.8%	17.6%	13.8%	20.0%	15.2%

第一部「食品の安全性と信頼性確保」について

問4 理解度	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
理解できた	45.2%	40.6%	65.9%	63.6%	35.0%	36.4%	53.1%	44.1%	48.3%	25.0%	46.3%
だいたい理解できた	51.6%	53.1%	31.7%	36.4%	65.0%	51.5%	43.8%	55.9%	51.7%	65.0%	49.8%
あまり理解できなかった	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	1.8%
理解できなかった	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
無回答	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%

問5 参考度	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
非常に参考になった	35.5%	43.8%	51.2%	63.6%	35.0%	33.3%	46.9%	41.2%	48.3%	40.0%	43.1%
ある程度参考になった	61.3%	50.0%	48.8%	36.4%	65.0%	57.6%	50.0%	58.8%	51.7%	55.0%	54.1%
あまり参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.7%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	3.2%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%

問6 内容がわかりにくかった点	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
説明に専門用語が多かった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	1.1%
資料がわかりにくかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.7%
聞き取りにくかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
適切な時間が確保されていなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.4%

問7 参考にならなかった点	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
すでに知っている内容がほとんどだったから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
内容が理解できなかったから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.4%

第一部「食品健康影響評価等の実際」について

問8 理解度	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
理解できた	51.6%	31.3%	56.1%	72.7%	20.0%	24.2%	34.4%	47.1%	62.1%	40.0%	43.1%
だいたい理解できた	48.4%	62.5%	43.9%	27.3%	75.0%	63.6%	59.4%	47.1%	37.9%	55.0%	52.7%
あまり理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	6.1%	3.1%	2.9%	0.0%	5.0%	2.1%
理解できなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	6.1%	3.1%	2.9%	0.0%	0.0%	2.1%

問9 参考度	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
非常に参考になった	35.5%	34.4%	46.3%	81.8%	40.0%	21.2%	43.8%	38.2%	58.6%	40.0%	41.3%
ある程度参考になった	61.3%	59.4%	51.2%	18.2%	55.0%	69.7%	50.0%	55.9%	34.5%	60.0%	53.7%
あまり参考にならなかった	3.2%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	2.9%	6.9%	0.0%	2.1%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	5.0%	9.1%	3.1%	2.9%	0.0%	0.0%	2.8%

問10 内容がわかりにくかった点	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
説明に専門用語が多かった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	3.0%	3.1%	2.9%	0.0%	5.0%	1.8%
資料がわかりにくかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
聞き取りにくかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
適切な時間が確保されていなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問11 参考にならなかった点	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
すでに知っている内容がほとんどだったから	3.2%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.9%	3.4%	0.0%	1.4%
内容が理解できなかったから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
その他	0.0%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	0.7%

第二部 モニターからの活動報告と意見交換

問12 参考度	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
非常に参考になった	29.0%	46.9%	41.5%	36.4%	45.0%	36.4%	46.9%	61.8%	69.0%	15.0%	44.2%
ある程度参考になった	61.3%	40.6%	41.5%	54.5%	50.0%	57.6%	50.0%	32.4%	24.1%	55.0%	45.6%
あまり参考にならなかった	6.5%	9.4%	9.8%	9.1%	0.0%	6.1%	3.1%	0.0%	3.4%	15.0%	6.0%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	3.1%	7.3%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	5.9%	3.4%	15.0%	3.9%

問13 意見交換の時間配分	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
もっと短くてもよかった	3.2%	9.4%	12.2%	0.0%	0.0%	6.1%	12.5%	5.9%	6.9%	0.0%	6.7%
適当であった	48.4%	62.5%	63.4%	54.5%	55.0%	54.5%	62.5%	61.8%	69.0%	65.0%	60.1%
もっと時間が欲しかった	45.2%	25.0%	14.6%	27.3%	40.0%	30.3%	25.0%	23.5%	20.7%	15.0%	26.1%
無回答	0.0%	3.1%	9.8%	18.2%	5.0%	9.1%	0.0%	8.8%	3.4%	20.0%	6.7%

第三部 小グループでの交流時間

問14 参考度	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
非常に参考になった	54.8%	65.6%	51.2%	36.4%	70.0%	24.2%	28.1%	61.8%	62.1%	55.0%	50.9%
ある程度参考になった	38.7%	25.0%	34.1%	45.5%	25.0%	42.4%	43.8%	26.5%	17.2%	20.0%	31.8%
あまり参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%	3.1%	0.0%	0.0%	5.0%	1.8%
全く参考にならなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	6.5%	9.4%	14.6%	18.2%	5.0%	24.2%	25.0%	11.8%	20.7%	20.0%	15.5%

問15 参考にならなかった理由	東京①	東京②	東京③	千歳	仙台	福岡	岡山	名古屋	大阪①	大阪②	全体
聞き取りにくかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
適切な時間が確保されていなかった	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	0.0%	0.0%	3.4%	5.0%	0.4%

問 16 会議全体についての感想や御意見など

○ 会議の進行・運営について

【会議全般】

全般的な運営については、「まとまっていて良かった」、「構成も内容もよかった」、「進行がスムーズ」、「テンポのある流れで進められた」などの感想が多かった。また、「講義形式にとらわれずに、あるテーマにつき各先生方や参加者との討論が中心であるとよいのではと思いました」、「もう少し全員が共通できるテーマがあってもと考えました」、「(小グループ交流で)テーマを決めて、グループディスカッションを行ってみてはいかがでしょうか」との意見があった。

【モニターの活動報告】

「他のモニターから活動のアドバイスを参考になった」、「他のモニターの熱意に触発された」という声が全会場から多数寄せられた。また、「もう少し時間を取るか、2人にしてゆっくりお話ししていただいたらよかったかも」、「レジュメがある方がよい」との意見もあった。

【小グループでの交流】

「時間が短かった」という感想が多かった他、「グループ交流でコミュニケーションが取れてよかった」、「最後の意見交換が楽しかったです。ありがとうございました」、「モニターの方々の熱意に触発された」という声が多数寄せられた。今年度の会議から行った他己紹介については、「面白かった」、「昨年に比較したら一段と良くなっている。特に他己紹介は良かった」という感想が多かった。一方、「もっとモニター同士の交流の機会があれば良かった」、「自己紹介ならもっと個性的な紹介が聞けたのではないか」という意見があった。

○ 会議の日程、時間の設定について

全般的に「時間に対して内容が多い」、などの意見があった。一方、「4時終了は遅くて(帰途が)結構大変」、「小さい子供がいるためできれば午前中開催が望ましい」という意見もあり、託児についての希望も2件あった。

また、「年間複数回会議を開催してほしい」などの意見が多く、県単位・全国規模での開催を含めて7会場・11件の意見があった。会議の日程については、「午前・午後を通しての一日日程で開催してほしい」の意見もあった。どの議事内容の時間を増やしたらよいかについては、様々で会場による差異もあるが、第二部の質疑応答について、「質疑応答と意見要望とは分けて聞いた方がよいのでは」などの意見があった。第三部の食品安全モニターの交流については、「もっと時間が欲しい」という意見が多かった。

○ 会場の設定について

岡山会場では、「JR岡山駅から近くてわかりやすく便利」であったという感想があった。仙台会場では、「仙台駅に近い場所で開催してほしい」との意見が2件寄せられた。

○ 説明内容等に対する主な感想等

(講演について)

- ・ 政府機関ということでスペシャリストな方々が委員になられてとてもたのしいと思いまし

た。食品の安全性について自分自身もっと勉強します。

- ・ 第一部の内容も知っていることは多かったのですが、よりわかりやすいグラフや図があり、ぜひ他の方にもお伝えしたいと思います。
- ・ モニター会議での委員会の取組についての講演は毎回聞いていても参考になる。
- ・ 食品の安全性と信頼性確保について、個別の話題については知っていることも多かったのですが、とてもよく整理された内容の講演でしたので、自分の頭の中も整理することができ、大変よかったです。廣瀬先生のお話もわかりやすかったです。
- ・ 「ネズミの毒性・ヒトの安全性」のお話し勉強になりました。
- ・ 本間先生の「地道な活動」のことばを印象深くおもいました。今日は来てよかったです。
- ・ よい資料をたくさんいただきましたので、勉強したいと思います。
- ・ 1 リスク分析の考え方、その必要性について理解できました。(かつて食品関係の仕事に従事していた時は、”わからないものは扱わない” 危ないものは扱わない” など極端なこともあり、本日の会議で非常に勉強になりました。) 2 安全・安心と科学性について理解できました。(客観性、定量性、再現性をもっているとの基準について、認識を深めました。
- ・ 昨年度のモニター会議よりとてもわかりやすい内容でした。(食品安全委員会の取り組み)
- ・ 最近の話題についての講演、とても勉強になりました。これからも新しい情報を自分で吸収して、多くの人に伝達していけるようにしたいと思います。
- ・ 今回の食品の安全性と信頼性確保の講演も食品健康影響評価の実際の講演もとてもよかったです。私の参加した3回の中で一番勉強になりました。参加者のレベルが色々の中で皆に分かるように説明ができていたと思います。
- ・ 「食品の安全性と信頼性確保」についての話は、内容が昨年と重なっている部分がありもう一度再確認する意味で良かったと思います。「食品健康影響評価の実際」についての話は、食品安全モニター調査での不安要因についての話ということでとても興味深く特にBSEについてのお話しはわかりやすく安心できました。昨年よりは、とてもわかりやすい会議でした。
- ・ 食品安全委員会の勉強会は非常にわかりやすかった。リスコミへ生かしていきたい。
- ・ 大変勉強になりました。特に食品の安全性と信頼性確保での基本用語：ハザードとリスクなどについては、学ぶ知識としてプラスになりました。また、見上先生の講演は大変専門的エビデンスに基づいたデータから分かりやすく専門家的立場でのお話しで、かなり納得のいく内容であったと思いました。
- ・ 新型インフルエンザなど最新の情報を聞く事ができた。
- ・ 本間先生とお話しができ、とても良かったです。
- ・ 今年で2年目です。昨年度もモニター会議に参加しましたがその時は理解は難しかった記憶があります。しかし今日は一生懸命聞いているためかとても参考になりました。
- ・ 小泉先生の話はすごく分かりやすかったです。専門的な内容であり、参考になりました。今日頂いた資料を自分の仕事に活用したいと思います。
- ・ 小泉先生の講演であった「安心を得るためには、人、組織への信頼が必要」ということが印象に残った。行政は都合の悪い事は隠すというようなイメージがいろいろな事件を通じて作られてしまい行政が安全といえればいほど不安になってしまうところがある。
- ・ 本日出席の厚労省農水省のお方は話分かり易いでした。感謝しています。

(食品安全モニターからの活動報告、食品安全モニターの交流について)

- ・ 様々な立場の方々がそれぞれの立場で食品の安全について考え活動しておられるのが印象的でした。
- ・ 食品モニターに選ばれて、実際の活動に不安があったのですが、説明を聞いてよくわかりました。いろいろな方の意見が聞けてよかったです。大変参考になりました。
- ・ 初めてのことで不安な部分も多かったのですが、適切なアドバイスをいただいて今後の活動

の方向が少し見えてきました。ありがとうございました。

- いろいろなご意見が聞けてよかったです。
- いろいろな、お話を聞き参考になりました。
- 最後の意見交換が楽しかったです。ありがとうございました。
- モニター経験者のお話、交流会、自分のマインド向上に役立ったような気がします。
- 送付された資料、メール等は難しく、モニターに応募したことを正直後悔していた。今回参加してみて、自分と同じように思っていた人がいたり、その他情報収集に具体的なものがあり参加してよかった。
- もっと堅苦しいものだと思い緊張していましたが、いろんな意見を聞くことができ楽しく時間を共有できました。
- モニター交流はとてもよいと思います。
- 主婦の方が積極的に食品安全委員会のモニターとして関係してきており、地域の方々にリスクコミュニケーションを通じ、科学的な知識をお知らせすることができることに期待したい。
- 積極的な発言で食に関し深い関心がある様子が大変頼もしく思いました。
- モニターの方々の熱意に触発されました。
- こんな熱意をもった方々がうまく活動するとすごいだらうなと思いました。モニター交流はファシリテーターさんもいらして規模も適切でとても楽しく有意義でした。
- 大変うまく組織された会でした。知識を深める機会であったとともにいろいろなご意見を共有できてよかったと思います。
- 食品安全モニターの三名の方々の活動報告がとても参考になりました。これまでの自分のモニター活動の仕方を反省し、今後、どのように活動していくべきかたくさんヒントをいただきました。
- 日常の積み重ねで地域の人々とより深い会
- 非常に勉強になりました。皆さんの意見を聞くことができ参考になりました。
- これからのテーマ等考える参考ができてよかった。意欲の湧く交換会だった。
- 食品安全について関心を持っている方が多いのだと思い安心できました。これから先もたくさんの方がかかわっていける場所であるといいなあと思いました
- 多くの方々から貴重な意見が聞けて大変勉強になりました。
- モニター会議にくるまで何をしたらよいかすごく不安だったが、意見交換で先輩方の意見を聞きとても参考になった。
- 今後の活動に大変役立ちました。
- 他己紹介はいろいろな方とコミュニケーションとれて良かった。
- モニターの方が記入例を具体的に話して下さりわかりやすかったです。
- 今回初めて参加して、モニター報告は具体的にどのようにすれば良いのかが少し理解できたので来て良かったと思いました。
- 様々な意見があり参考になりました。
- 直接お話しが聞けたり他のモニターの方の様子を知ることができました。
- 昨年に比較したら一段と良くなっている。特に他己紹介はよかった。
- 意見交換も活発に行われとても良かった。
- 今回のグループディスカッション(小グループでの)は進行も考えて頂いていたりスムーズで楽しく感じました。全体的に活発に意見も出ておりとても勉強になりました。
- 県外からの方も多く参加されており責任を感じた。
- 他のモニターの方の活動や意見を聞くことができ大変参考になりました。
- 食品の安全委に対する関心が高く参加者の皆さんに熱意が感じられた。
- 食品安全モニターの3名の方の意見をお聞きしてまた改めて今年度こそは情報収集に力を入

れてみたいと感じました。多方面の分野の方のお話しが、聞けるという点で大きな収穫があります。今後、増々の御発展願っています。参加させて頂いてありがとうございました。

- ・ 2年以上のモニターの方の経験を聞くことができて良かった。もっと色々なことが聞きたかった。
- ・ みなさんのご意見が聞けが良かったと思います。
- ・ モニター2, 3年の方も意見が聞けて良かった。
- ・ モニター意見交換等では各県モニターの活動やさまざまな意見を聴くことができ、自分も学びました。やはり、モニター会議のように、年1度は通信、PC、HPのみならず会議式で意見や知識を学ぶ必要はあると考えています。ありがとうございました。次年度もモニター会議をお願いします。
- ・ モニター同士の意見交換は、色々ご意見をお聞きし参考になった。
- ・ 平成17年度、19年度20年度に続き食品安全モニターにお選びいただきましてありがとうございます。短時間でしたが(30分)小グループでの交流は良かったです。皆様が各地域でそれぞれの思いで一生懸命に、食を、食品安全を考えていらっしゃることをお聞きし、ちょっと感動!!改めてモニター活動一生懸命がんばろう!!と元氣になれました。2年間がんばります!!(その後もがんばりたいです!!)
- ・ 出席されている方の食品問題に対する意識の高さがうかがえた。ディスカッションでは皆の率直な意見がうかがえた。
- ・ モニターに対しての期待がうかがえました。今後も頑張っていきたいと思います。
- ・ 進行に工夫がされていると感じました。参加者のモニターさんのお話も興味深く今後が楽しみです。
- ・ 第一部のプレゼンについては、2題とも分かりやすい内容で、理解しやすかったです。第二部のモニターからの活動報告では、モニター活動を行う上で、とても参考になる話が聞けました。また、活発な活動や意見を通して、良い刺激を受けました。第三部のモニター交流では、各モニターさんの悩みや苦悩もきけて、共感するものがありました。
- ・ 不安を抱えて参加しましたが、いろいろな分野で活動されている方々のお話も聞けて、大変良かったと思います。
- ・ 2年目の経験者の方の意見が聞けて参考になりモニターとしての役割がやや分かった気がします。いろいろの勉強の場で知識を深めていきたいと考えています。
- ・ モニター1年目でどのような随時報告をしたらよいか、視点すらわからない状態でした。今回、参加するのも不安があったのですが・・・何よりも、モニター先輩の報告が参考になりました。
- ・ モニターのみなさんと意見交換ができ、とても有意義な会議でした。
- ・ 他の人とのコミュニケーションがとれて良かった。
- ・ グループに分かれての意見交換は、いろいろな方の意見が聞けて参考になりました。
- ・ 食に関する参加者の意識の高さを感じた。モニターとしての具体的な実践例を知ることができとても有意義な時間をもてた。
- ・ モニター2年目の方の意見や、司会の方の進行が良く、自分がどのように活動していくかの参考にすることができました。
- ・ たいへん参考になり有意義でした。
- ・ 小グループに分かれての意見交換はとても参考になりました。
- ・ 交流ではモニターの方のご意見を聞くことができよかったです。
- ・ 第三部、今回はけっこうおもしろかったです。
- ・ 小グループ交流で多くの意見が聞けてとてもよかったです。
- ・ 交流の場で意見交換ができてよかったです。

- ・ 皆様真剣にとり組んでおられて、私もとりあえずホームページで勉強したいと思います。
- ・ いろいろと参考になった。
- ・ 知識が片寄っていた為、食品モニターとしての方向性が不明であったが、明確になりました。
- ・ モニターの活動報告は大変参考になった。今後どうやって活動したらよいか、どのようなことを日頃気にかけて報告をしたらいいか具体的に教えて頂いてありがたかった。
- ・ 今後、この様な意見交換会などで色々な職種の方とふれ合う機会があれば嬉しく思います。
- ・ 小グループに分かれての話し合いの場が一番印象に残りました。
- ・ 様々な職業の方と話をすることができてよかったです。小泉先生と最後の小グループでお話しできて、勉強になりました。もっと多くの方にこの活動を知ってもらえるようにがんばります。

(全般についての感想等)

- ・ 今まで食品安全委員会は国の機関であって一般からの意見を取り上げることが少ない印象でした。本日、食品安全モニター(一般人)も参画できる開かれた感じを持ちました。
- ・ 全体的に食に対する意識の高い方がやはりモニターの方が多く、また食の安全性については正しく伝わらないとよくない部分なので、問題意識をもって今後も活動していきたいと思われました。今回はとても有意義な会議でした。
- ・ あまりに専門的な方々の意見に驚きましたが、自分は自然体であり無理せず活動していこうと思いました。食品安全委員会のHP、安全ダイヤルなど、情報ルートを身近な人達に伝えていけたらと思います。
- ・ 2年目ですが昨年より理解・関心が非常に強まったのでできれば今後もモニターとして関わりたいです。
- ・ モニター活動は各人の職歴に基づいてその意識が異なる。したがって、報告内容についても千差万別であり、素直に受け入れがたい事もある。千差万別であってしかるべきかもしれない。食品安全委員会の活動内容は学校にどれほど浸透しているのでしょうか。
- ・ とても充実した時間でした。日々の仕事にとっても参考になります。ありがとうございました。
- ・ 参加してよかったです。
- ・ モニター会議には過去2回出席したが今回が一番よかった。特に交流会。
- ・ リスクコミュニケーション、地域のネットワークは参考になりました。今後は安全モニターOBの会でも作りたいが、横の繋がりがわからない。
- ・ 今年は報告書をしっかりと書きたいです。
- ・ とても有意義な会議だったと思います。2年間、楽しくモニターになりたいと思います。ありがとうございました。
- ・ 少ない中での会議でしたが、勉強不足な点もあったり、過去に勉強したなあと思いつき返す場面もありました。
- ・ 短時間でテンポのある流れで進められたと思います。今後のモニター活動に役立てるようにします。
- ・ 司会進行はまじめすぎて、会議全体がかたくなるしかった。交流で内容が再確認できた。
- ・ これまでの経歴を生かして、地域で活動してみたいと思いました。サイエンスカフェなどを生かして活動してみたいと思いました。また、いきなり「毒性」「リスク」という概念では難しいので、もう少し広く「遺伝」「生命」などを基盤として生かせられたらと希望しております。
- ・ 私にとっては非常によく理解できました。ただ気になることがひとつありました。遠方より来ている人もいる中で眠っている先生が非常に気になった、眠いのなら見えない場所で寝て欲しい。
- ・ 安全の話はあったが信頼の話はなかった。
- ・ 和やかな雰囲気の中で会議に参加できました。

- ・ モニター報告も気楽に出せそうです。
- ・ 有意義でした。ありがとうございました。
- ・ 報告もできるように注意して生活するようにします。
- ・ 製造販売しながら、お客様とよく食品に対する安全のことが話題になります。皆様方が自分の身体や孫さん配偶者のまず健康を話されます。情報としては新聞だったり、テレビ週刊誌などです。私は自分がその製造販売に関わるものとして正確な知識を提供したいと考えていますので、このような勉強会に是非参加したいです。DVDをお客様に対してお店で流したり、パンフレットを置いていつでもご覧になっていただくことなどでしたが、今回、一步踏み込んで、お話しを伝達できるように再度資料を再読して少しでも自分の言葉でお話しできるようにしたいです。私は食品安全モニターとして以前に、自分自身も自分の孫にも安心して食べてもらえる製品作りを心がけていますので、お客様にも”食品の安全”を日頃から話しています。行動と言動が一致するように、モニターの活動をしていきたいと思いました。本日はありがとうございました。
- ・ やはり意識はあっても、実行まで至らないことが多いですが、それに甘んじずにやってみようと思います。
- ・ たのしく学び、参加することができました。
- ・ モニターの活動内容について、不十分な認識をしていました。本日以降、そって活動をしていきたいと思います。
- ・ できることからがんばります。
- ・ とても有意義な一日でした。
- ・ 今回初めての会議出席だったのですが、モニターの必要性・活動の内容について詳しく説明してもらい非常に参考になりました。
- ・ 大変不安で参加した会議でしたが、前半の(第一部)説明で具体的な文言理解、内容理解ができました。第二部の活動報告では、取組の実際がわかり、これからの自分のモニターとしての在り方に、明るさが見えて来ました。第三部では、コミュニケーションがよくとれて、モニター同士の交流がはかれてよかった。仙台まで来て参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・ 大変有意義でした。
- ・ 勉強します。
- ・ 色々な年代、各種の職業経験の意見交換はとてもすばらしい。食の安全安心から正しい食育について考えてみたいと思います。
- ・ これから勉強が必要だと感じました。よい機会と思い、食品安全について勉強させて頂きたいと思います。よろしく願いいたします。
- ・ 内容のある充実した会議とは思えなかった。
- ・ 食品安全モニターの内容が良く把握でき会議に参加してとても良かったと思います。1年目なので新たな情報が発信できればと考えています。
- ・ 安全モニターの実態を把握できました。
- ・ 消費者庁、地方自治体との関係がある程度はつきりしてから考える必要もあると思います。
- ・ 食品安全モニターの応募数が募集数の7倍もあったというお話を聞き驚きました。それと同時に選考して頂いたからにはしっかり勉強し、モニターとしての活動を充実しなくてはならないなと思いました。意見するためには、情報や知識がなくてはできないので日常生活の中でも常にアンテナをはりいろいろなことを吸収していこうと改めて思いました。モニターからの活動報告はとても参考になりアンケートや報告だけでなく、地域の方との勉強会などを行っている方もいらっしやるのが分かり、お手本にしたいと思いました。専門家の方の話が聞けたのは良かったです。会議に出席させて頂き様々な方との意見交換など勉強になりました。ありがと

うございました。

- ・ 少し固苦しかった。内容は良かった。
- ・ この会が成長しているのが良く分かりました。ますます発展することを祈ります。
- ・ 貴重な時間となりました。ありがとうございました。今回を機に、残り1年のモニター活動を努めさせていただきますので、よろしくをお願いします。
- ・ 大変有意義な時間が持てました。
- ・ ざっくばらんで有意義でした。
- ・ まとまっていたと思います。ありがとうございました。
- ・ 構成も内容もとてもよくわかり、よかったと思います。
- ・ 時間配分も良く、よい会議だったと思います。
- ・ 進行がスムーズで理解がしやすく有意義な時間を持てました。
- ・ 今年1年がんばりたいと思います。
- ・ 情報収集の必要性を実感しました。
- ・ モニター会議はこれで3回目になりますが年々充実しているように思います。これからも期待致します。(特に他己紹介はリラックスして導入できよかったです!!)
- ・ 良かった!
- ・ 非常に面白かったです。
- ・ 昨年よりも内容が充実していました。

○ 説明の内容について(講演内容についての詳細な質問は除く。)

- ・ 専門用語が多くて理解できない部分が多かった。
- ・ 司会の方の話し方(マイクを通した声)がとても聞きにくかった。
- ・ 原稿を読み上げるのでは初参加者は理解できない。特に活動内容の説明のような重要な部分は自分の言葉で話すようにしてほしい。どこの省庁の方も人前に出ると原稿を読み上げるタイプの方が多いように思う。
- ・ 冒頭の司会者の対応が「棒読み」すぎる。配付資料の確認の仕方が不親切。
- ・ 食品の専門家にもたくさんの職種があり、専門用語が難しいことも多いので説明してほしい。
- ・ 実際の個別な状況をもっと具体的に知りたかった。
- ・ 「食品の安全性と信頼性確保」「食品健康影響評価の実際」も資料を見れば解決できることを資料を見ながら読みながら説明している。説明を中心にし、資料は簡単に必要な事項のみ選び書くとか、資料を中心に資料に書かれない事項を説明するとか、もっと工夫が必要と思う。資料に関しても時間とお金がかかっている。ムダを省き、本当に説明すべき事項をもっと”きちんとていねいに”お願いします。
- ・ 正直、委員会の方々のお話をもっと数字で示した多くのあらゆる分野の研究発表を聞きたい。(安心を得るためには、主婦や食品従事者の立場からすれば数字である程度解決できることがよくあるので。)
- ・ 閾値という言葉は、知らない人にはわかりにくかったかもしれない。
- ・ 可能であればスライド・説明に事例・具体例を加えて頂ければ理解しやすいと感じた。
- ・ もう少し踏みこんだ内容でもよい。

○ モニター会議以外のモニター活動について

- ・ モニターレポートより簡単に意見を伝える方法として、HP上でコミュニティのような書き込み式の意見交換ができればよいのではないかと思った。

- ・ (モニターの「職務経歴区分」で) 専門の職歴が5年未満はひとまとめで「一般消費者」扱いなのが疑問。モニター応募の時は(専門性の)条件があったはずだが、それは認められないのか。

○ 委員会の活動全般について

- ・ HPにいろいろ載せることは大事ですばらしいが、食品安全委員会、HPの存在自体を知らせる方法も併せて考えて実行していかないと広まらない。
- ・ 食品安全委員会のホームページをもっと具体的にしてホームページを見る人を増やしたらどうか。
- ・ 人材育成(食育を含む)を展開する仕組みが早くできるとよいと思う。
- ・ サイエンスカフェに、食の安全に関する情報発信の場としての可能性を強く感じた。今後、多くの地域に広がっていくことを期待する。
- ・ 食品安全や委員会の活動をもっと身近に感じられる何かが必要。